



今後の主な進路関係行事

【1月の予定】

- 5 (土) プレ演③
- 6 (日) プレ演③
- 7 (月) 始業式 服装指導
大掃除
- 12 (土) 土曜課外①②
土曜講座①
登校学習会②
- 15 (火) 月曜授業
- 18 (金) センター試験激励会③
進路講演会②
小論文がイッスン①
- 19 (土) センター試験
進研模試①②
- 20 (日) センター試験
進研模試②
- 21 (月) センター試験自己採点③
センター本番演習②
- 24 (木) 懇談期間(～30日)
センター試験分析報告会
- 25 (金) 大学出張講義②
- 26 (土) 駿台②

【2月の予定】

- 2 (土) 駿台①
進研マーク・プロット②
- 3 (日) 進研マーク・プロット②
- 6 (水) 3年登校日
- 9 (土) 土曜課外①②
土曜講座①
登校学習会②
- 13 (水) 3年登校日
- 15 (金) 試験時間割発表
部活動休止(～26日)
- 16 (土) 土曜課外②
登校学習会②
- 20 (水) 3年登校日
- 22 (金) 第5回定期試験
(～27日)
- 27 (水) 3年登校日 大掃除
- 28 (木) 卒業式予行 表彰式
同窓会入会式
- 3 / 1 (金) 卒業式

※○数字は学年を示します

<平成最後の年の幕開けです>

新年、明けましておめでとうございます。平成最後の年となる 31 年が幕を開けました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

3 年生の皆さんにとっては、いよいよ大学入試シーズンの本格的な到来となります。1月 19 日(土)・20 日(日)には「大学入試センター試験」が行われます。本校の 3 年生は両日にわたって、山梨大学で 260 名、山梨県立大学で 4 名、山梨学院大学で 12 名、山梨英和大学で 1 名(合計で 277 名の 3 年生がセンター試験に臨みます)の 4 会場に分かれて試験に挑むこととなります。本番を前に、不安や焦る気持ちがわき起こってくるかもしれませんが、どこにいても「やることは一緒」です。当日の朝は各会場で指定された場所に先生方が待っています。必ず先生方の顔を見て、一息ついてから平常心を以て試験室に入ってください。そして、答案を前にしたら、あとはこれまでの自分を信じて一筆ごとに気持ちを込めて解答を埋めていくだけです。大切なことは、2 日間の全行程を通じて、ひたすら「前だけを向き」、そして自分のやってきたことを存分に発揮する状況を「楽しめる」ことが出来るかです。3 年生の健闘を祈っております。

1、2 年生においても、3 学期はそれぞれの次の学年への準備期間として、「2 年生 0 学期」、「3 年生 0 学期」と呼ばれています。現学年の学習内容をやり残すことのないようしっかりと取り組んで欲しいと思います。それぞれの学年のまとめとなる定期試験や模擬試験も実施されます。それぞれの試験の目的を見据えて計画的に学習し、進級するにふさわしい力を付けていってください。



<12月の進路行事から>

12月21日(金)の7校時に、1年生対象の「職業人講話」を実施しました。これは、例年1、2年生に対し、今後の進路に役立てていく機会として、甲府ロータリークラブの会員の方から職業上の知識・経験をお話していただいています(2年生は、1月11日に実施します)。今回は、東京ガス山梨(株)代表取締役社長金澤悟様にお出でいただき、「地域とともに考える山梨での取り組み」について講演をしていただきました。ガス業界の現状と将来について、小売りの自由化による競争の激化、ガス・インフラの整備について詳しく説明していただきました。また、講演の中で将来の日本・世界を担うみなさんへということで「目的と目標をしっかりと持つ」ことの必要性、「安易な道を選ばない。選んだことに責任を持つ」ということで選択することは同時に自己責任が生じること、「学ぶ」ことで人生を豊かにおくることができること、さらに周りの人に「感謝」することの大切さを伝えていただきました。生徒もお話を聞く中で、これからの人生において、何を大切にしていっていきべきかを学ぶことが出来た時間となったようです。



1. どうやってGDPで空間するの
GDPとは国内総生産のことで、国内で生産された財とサービスの総額を指します。GDPは国の経済の強さを示す重要な指標です。GDPを増やすためには、国内消費を増やすことや、輸出を増やすことが重要です。また、GDPを増やすためには、労働力や資本を増やすことが必要です。GDPを増やすことは、国の経済を活性化させることに繋がります。GDPを増やすためには、政府や企業が協力して取り組む必要があります。GDPを増やすことは、国の未来を明るくするために大切なことです。

<入試直前記の過ごし方と準備>

<東進進学通信 Vol. 337 >より

◎受験直前の学習で気をつけたいこと

○全ての科目をまんべんなく勉強しよう

受験の直前は、弱点補強も大事ですが、むしろ全ての科目をまんべんなく学習した方がよいです。過去問演習を行っている、自分の苦手科目に注意が向いてしまって焦ってしまうことがあります。しかし、苦手科目の学習ばかりに集中しすぎるのはよくありません。センター試験直前に、理系ならば地歴・公民を、文系ならば理科を集中的に学習しようとする人がいますが、実際には英語・数学・国語のほうの配点が高いケースが多く、結果的に配点の高い科目の学習がおろそかになってしまうことも少なくありません。学習時間の配分法の目安は、第1志望の大学の科目ごとの配点です。配点に比例した時間を各科目の学習にあてるのが最も理にかなっています。もちろん、苦手科目にある程度の時間を割くのは悪いことではありませんが、配点が高い科目で確実に得点できるよう、それが得意科目であっても十分な学習時間を配分したほうが良い結果につながることが多いです。

○発展的内容よりも基礎固めを重視しよう

この時期の受験生が陥りやすい悪い思考パターンがあります。たとえば、「得意科目で難しい問題を解き、他の受験生と差をつけよう」と考えたことはないでしょうか。もちろん、難問が解けることは悪いことではありません。しかし、他の受験生に差をつけようと、出題率が低い発展的な内容ばかりを学習し、基礎固めがおろそかになってしまうのは良くありません。入試結果を分析すると、難問ではあまり点差がついていないことが多いです。ほとんどの受験生が正答を得られないため、合否にはほとんど影響しないからです。一方、合否の分かれ目となっているのは、基本的な問題の正答率です。入試当日は過度の緊張状態となるため、普段は決して間違えないような基本的な問題でさえ、入試本番ではミスをしてしまった経験は多くの先輩たちも口にかけていることです。合格するためには、そういった基本的な問題を確実に得点することが最も重要になってきます。公式や用語・単語の確認、教科書の基本事項のおさらいなどは、センター試験前に一通り済ませておきましょう。入試本番でのケアレスミスや、基本問題の取りこぼしを防ぐのに効果的です。さらに、模試や過去問演習で間違えた問題の見直しもしておきましょう。模範解答の解説を読んだり関連事項の確認をしたりして、知識を広げておくとなお良いと思います。また、この時期に新しい問題集や参考書に手を出すのは禁物です。それよりも、以前解いた問題を繰り返し解いて知識の定着と理解を深めるべきです。繰り返し問題を解くことによって、応用力が養われ、それが自信につながっていくのです。

◎受験シーズンの体調管理

○規則正しい生活を送ろう

体調管理の基本は規則正しい生活です。受験シーズンを迎えると、深夜まで長時間勉強してしまう人がいますが、人間の脳は夜になると機能が低下し、太陽の光を浴びると活性化するといわれています。したがって、夜型よりも朝型の生活のほうが学習効果は高いといえるでしょう。また、夜型のリズムで生活していた人が入試直前に朝型に戻そうとしても、なかなかうまくいかないことが多いです。普段から試験本番と同じ時間帯（午前から午後にかけて）に脳が活性化するように、規則正しい生活を心がけましょう。

○風邪などの予防、インフルエンザ対策

どれだけ勉強していても、病気になってしまえば、その実力を発揮することは難しいです。受験生は、学校や予備校、試験会場など、風邪やインフルエンザに感染しやすい場所に出向く機会がどうしても多くなります。毎年受験シーズンは、インフルエンザ感染者が増加する時期でもあります。外出先ではマスクを着用し、カイロを携帯したりして防寒に努め、帰宅時には手洗いとうがいも徹底しましょう。予防に注意していても、体調を崩してしまう場合もあります。体調に異変を感じたら無理をせず、十分に休養をとる勇氣を持ってほしいと思います。目先の勉強よりも、ベストの体調で入試に臨むことを優先しましょう。